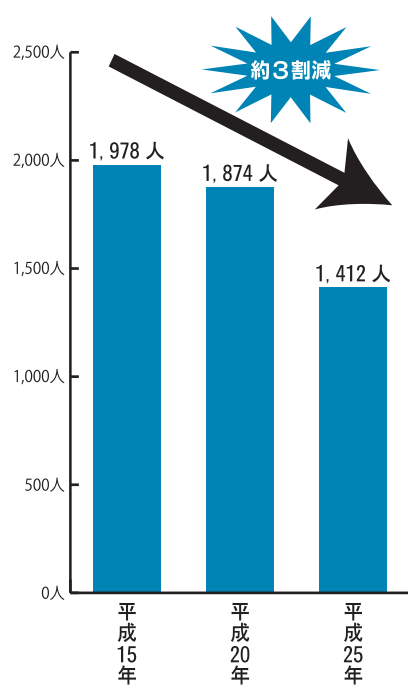


■漁業就業者の推移



**【用語解説】**  
 漁業就業者とは、満15歳以上で過去1年間に自営漁業または雇われの海上作業に年間30日以上従事した人です。

農林水産省の「漁業センサス」によると、市内の漁業就業者数は、左グラフのとおり、平成15年では1,978人でしたが、平成25年には1,412人となり、この間、人数

**減少が続く  
 漁業就業者**

本市の漁業就業者(※)数は、震災以前から減少が続いていましたが、震災を契機にさらに進行了りました。県内においても同様に減少が続いています。

では566人、割合では約3割減少しています。

このまま漁業就業者数が減少すると、漁業生産量の低下を招くだけではなく、漁村地域の活力不足につながることから、市では早急に対策を講じる必要があると考えています。

**就業者確保の  
 取り組み**

全国的にみても、漁業就業者の減少は深刻な問題となっています。

このことから、国においては、新規漁業者の確保・育成のため、漁業者と新規漁業就業者希望者の相談の場の提供や新規漁業就業者が漁業現場で研修する場合に対する支援な



赤崎小学校の児童らで構成されている赤崎海づくり少年団では、カキ養殖の見学など地場産業への関心を高める活動を行っています

**天然資源に恵まれた  
 良好な漁場**

岩手県南部に位置する本市の沿岸域は、起伏に富んだりアス海岸で、北から吉浜湾、越喜来湾、綾里湾、大船渡湾、門之浜湾と5つの湾が連続しており、天然資源に恵まれた好漁場となっています。また、沖合は黒潮と親潮がぶつかる世界有数の三陸漁場に面しています。

浅海・近海においては、豊富なアワビ、ウニなどの磯根資源を採捕する採介藻漁業のほか、静穏度に優れた漁場環境を活用したカキ、ホタテガイ、ホヤなどの養殖漁業、外洋でのワカメ養殖漁業が行われています。また、アワビ、ヒラメなどの栽培漁業、サケの増殖事業などの「つくり育てる漁業」も盛んに行われています。

周辺海域や沖合の三陸漁場においては、定置網漁業や漁船漁業などが幅広く営まれ、大船渡市魚市場には、サンマ、サケ、イサダなど四季折々の水産物が水揚げされます。

本市では、漁業に加え水産加工業、流通業など、水産業が基幹産業となっています。

**後継者不足などの  
 水産業の問題**

平成23年3月に発生した東日本大震災(以下「震災」という)によって、漁港施設や漁船、養殖施設などの生産基盤のほか、流通・水産加工業などの多くの施設・設備が被災し、本市の水産業は壊滅的な被害を受けました。

これまで漁業者の協力を受けたが、漁港施設をはじめ漁業生産に直接関わる漁船や養殖施設、作業保管施設などの共同利用施設の復旧を優先的に進めてきました。その結果、平成27年度までに共同利用漁船、養殖施設、定置網、サケふ化場は要望のあった施設全てが完成し、生産量も徐々に回復してきました。一方で、漁業就業者の減少や高齢化、天然水産資源の減少など、震災前から続いている多くの課題に直面しています。

Interview

**大船渡の水産物の魅力を  
 全国に発信します**

地域おこし協力隊  
 佐藤 祥子 さん



これまで何度も大船渡市を訪れ、ホタテやホヤの水揚げ体験、漁場ダイビングなどを体験しました。そのときに漁業者の方と話す機会があり、大船渡の土地や人柄の良さに触れ、多くの皆さんにこの良さを知ってもらいたいと思い、地域おこし協力隊に応募しました。

担い手の確保のためには、漁業の魅力を発信し、関心を持ってもらうことが重要だと思います。フェイスブックなどを通して情報を発信していきますので、漁業者の皆さん、漁港などでお会いした際には取材にご協力ください。

大船渡市水産課地域おこし協力隊 **検索** 「いいね!」  
 お願いします♪

市では、「大船渡市漁業就業者確保育成協議会」を設立し、漁業就業者の確保に向けて、現状の把握や課題の整理を進めています。

漁業生産を維持するとともに、漁村地域の人口減少に歯止めをかけるため、漁業担い手の育成確保に努めなければなりません。

市としては、「大船渡市漁業就業者確保育成協議会」において関係者と協議を行いながら、効果的な担い手対策を進

「漁業をやってみたい」「漁業体験や新規漁業者の研修を受け入れてほしい」とお考えの方は、問い合わせ先までご連絡ください。

▽連絡先/問い合わせ先  
 大船渡市漁業就業者確保育成協議会事務局【市役所本庁水産課内(☎内線377・374)】